

## 再び歌い、幸せを掴もう

### 合唱指揮者・歌手 飯沼京子

加藤良一様よりご依頼を受け、私の近況を書かせていただくことになりました。

#### 待ちに待った練習再開

私に関わる15の合唱団は、新型コロナウイルス感染拡大のため、早い団で2月下旬より、遅い団で4月より、全ての団体が活動休止となり、再開は早い団で7月より、遅い団で10月より再び歌い始めました。休止期間が最も長かった団は7ヶ月(高齢者の多い女声)、短い団は3ヶ月(働き盛りの男声)でした。

#### リモート 若い世代は抵抗なし

休止期間中、年代にかかわらずどの団もリモートでの合唱をしたがらず、あくまでも“待ち”のスタンスでした。それほどまでにアナログで、本来の合唱こそが真の楽しみという歌い手たちに私は囲まれているのだ、と再認識したほどです。

そんな中、大学構内に立ち入れなくてもリモートで頑張った**岐阜大学コーラスクラブ**は、10人に満たないとは言え新入部員も入り、私とのリモートレッスン(個人レッスン、パートでの個人トレーニングなど)も織り交ぜながら、対面練習までの期間を乗り切りました。定期演奏会開催に対しても前向きです。

10月に入り、続々と8団体が活動再開。練習場に行ってみると、再開・再会を喜ぶ姿はあれど、ひと度歌い始めると、マスクに阻まれながらも、いつもと同じ熱心な姿勢で、どの団にも音楽的な空間が生まれ、それぞれが自分の居場所に帰ってきたんだなあ、と感じました。

#### 休みの間、歌いたい曲を募る

団によっては、再開した際に歌いたい曲を募っておき、それを次々と歌いました。また別の団では、再開後パート毎に練習した曲を発表する会を開こうと決めてあり、私が選んだ課題曲「心の瞳」と、各パートが選んだ自由曲を現在練習しています。

一方、休止前に取り組んでいた曲を、再開後もそのまま練習。何事もなかったかのように淡々と歌う姿もまた、嬉しい光景です。そんな中、未だ再開できないのは職場2団体と、全員が若いワーキングウーマンで小さい子供たちがいる団体です。



さぞ歌いたいことだろうとは思いますが、趣味(合唱)を最優先にはできない上、合唱そのものの環境が逆風で、再開の目処は立っていません。しかし、再開した団体はどれも喜びにあふれ、一瞬でも感染への不安を忘れ、心から仲間と楽しむ姿があり、これこそが人間が人間でいられる大切な時間なのだ、と私は目を細めて、その幸せな光景を眺めています。

#### 自らの手で幸せ掴もう

とは言え、これだけあちこちが再開したことで、私はその分移動が多くなり、会う人の数も急増し、ウイルスを運ぶことになってはいないか、と気がかりではあります。しかし、私も一人の人間。求められる場所で仕事をし、共に音楽を追求し、喜びを分かち合うからこそ、私にも大切な時間が得られるわけです。

ここ暫く、誰もが「**自分の場所で咲く**」ことを許されず、自分が思う歩みが阻まれていましたが、こうして少しずつ切り開き、自らの手で幸せを掴んでいけるよう、願ってやみません！

#### 【プロフィール】

神戸女学院大学音楽学部音楽学科声楽専攻卒業。畑きみ子氏に師事。

歌曲を中心としたソロ活動の他、現代邦人作品の初演、合唱曲のソリスト等多数出演。リサイタル、サロンコンサート等を意欲的に開催。現在、15団体の指揮者・トレーナーを務め、リサイタル、コンクール、演奏旅行等の場で数々の成果を挙げているほか、客演指揮、審査員、講習会の講師等、活動は多岐にわたっている。

また、大学合唱団との交流も多い。日本合唱指揮者協会会員、日本男声合唱協会個人会員、関西合唱連盟理事、大阪府合唱連盟副理事長、平成指揮者十人の会同人、NPO法人関西音楽人クラブ会員。

#### 【編集部より】

飯沼京子さんは、ご覧のように大変幅広く活躍されており、日本男声合唱協会の機関紙(じゃむか通信)に「**京子の部屋**」というエッセイコーナーもお持ちです。